

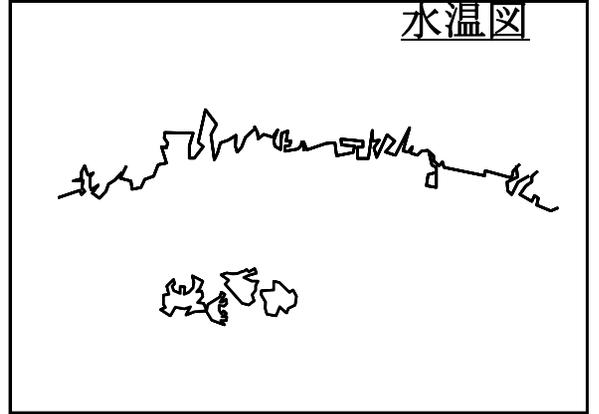
# 兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 11 号)

2023年 1月16日発行  
 兵庫県のみ研究所

西播地先において、小型珪藻のキートセロス、レプトシリンダラス、大型珪藻のユーカンピアが依然確認されていますが、発生量は減少しています。沖合漁場においても、同様の珪藻が確認されており、発生量は増加傾向にあります。1月13日～14日の降雨(地点: 姫路, 合計22.0mm)後の調査ということもあり、窒素は、西播地先で概ね2~4  $\mu\text{g-at/L}$  台、沖合漁場では概ね1  $\mu\text{g-at/L}$  以下の値となっています。

(珪藻、栄養塩ほか)

西播地先では、小型珪藻のキートセロス、レプトシリンダラス、大型珪藻のユーカンピアが確認されたが、発生量は前回(1/5)調査より減少していた。沖合漁場においても、西播地先と同様の珪藻は確認されるが、発生量は増加傾向にある。各海域のユーカンピア発生量(海水1mlあたり)は、西播地先で10~200細胞(前回値: 100~400細胞)、沖合漁場で50~150細胞(前回値: 0~30細胞)であった。赤穂漁場では、陸水等の影響により窒素の値が特異的に高くなっていた。



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	0.5	<b>3.9</b>	1.8	1.1
	リン	0.38	<b>0.35</b>	0.37	0.27
家島・坊勢	窒素	2.3	<b>0.6</b>	3.5	2.2
	リン	0.53	<b>0.43</b>	0.55	0.57

(1/5)

※窒素の平均は赤穂を除く

(1/17)

## 栄養塩 (窒素) 図

2023年 1月16日調査

